

高層マンション 防災ハンドブック

～被災しても住み慣れたわが家で暮らし続けるために～



平成30年2月（令和4年3月改訂）

天王寺区役所 市民協働課安全まちづくり室

ごあいさつ

日本は地震や台風など自然災害が発生しやすく、特にここ数年は毎年のように各地で被害が発生しています。

とりわけ、平成23年3月11日に発生した東日本大震災は甚大な被害をもたらし、死者・行方不明者は約2万2千人にのぼりました。

東日本大震災をふまえた想定では、科学的に考えられる最大級の地震である南海トラフ巨大地震について、大阪市全体では最大で約12万人^{※1}の死者が出るとの予想が大阪府防災会議から発表されています。

さらに、発生が予想されている内陸直下型の上町断層帯地震では最大震度7、天王寺区内では600名近い死者が出るとの想定が示されています。

大きな地震・災害に遭遇した時、あなたとあなたの大切な人の命を守ることができるのは、**日ごろからの備え**です。災害の発生は避けることができませんが、先手を打って備えることが、被害を最小限にとどめて、命を守り抜くことにつながります。

天王寺区では近年マンションの建設が相次ぎ、今や住戸の4分の3が6階建て以上の高層マンション^{※2}となっています。

さらに、令和2年以降のコロナ禍においては、感染拡大期の避難生活の難しさや、在宅避難をするための備えの大切さが浮き彫りとなっています。

このハンドブックは、マンションにお住まいの方に、ご自分でできる対策に加えて、マンション内の助け合いなど、地震発生時の備えとしての対策をまとめました。

本冊子をご活用いただき、早速今日からでも、来るべき「イザ」という時に備えていただきたいと思います。



令和4年3月

天王寺区役所 市民協働課安全まちづくり室

※1 天王寺区内の死者想定は3人。

※2 マンションの「低層」「高層」について明確な定義や区分はありませんが、一般的には2～3階建てを「低層マンション」、4～5階建てを「中層マンション」、6階建て以上を「高層マンション（20階建て以上：超高層）マンション」と呼んでいます。なお、超高層マンションの区分は建築基準法第20条により、高さ60mを超える建築物には構造に関するさらに厳しい規定が設けられていることによります。



【大地震発生！マンションはその時どうなる？】	4
地震によるマンションの被災	4
(1) 建物の被災状況	4
(2) マンション設備の被災状況	5
天王寺区内の高層マンションの現状	5
天王寺区内の被害想定	6
マンション特有の被害	6
(1) 長周期地震動	6
(2) エレベーターの停止	7
(3) ライフラインの停止	7
(4) その他の問題	8
大阪市の主なマンション関連制度	8
【地震発生時の行動】	9
地震発生直後の行動	9
まず自分の身を守る行動を！	9
揺れが収まったら	9
(1) ライフラインの安全確認	9
(2) 家族の安否確認	9
(3) マンションでの安否確認と在宅避難	10
【マンションで生き抜くために】	11
地震の発生に普段から備える（自助の備え）	11
(1) 家具類の転倒・落下・移動を防ぐ	11
(2) ガラスが割れて飛び散らないように対策する	12
(3) ライフライン停止への対策	12
(4) マンション特有の注意点	13
(5) 食料品や生活必需品の備え	13
【マンション内での助け合い】	14
つながって、防災力の向上を（共助の備え）	14
(1) 居住者の把握と災害時居住者名簿の作成	15
(2) 災害時のルールを決めて共有しておく	15
(3) 自主防災組織と災害対策本部の立ち上げについて	16
(4) 地域ともつながって、さらなる防災力の向上を	16
【風水害への備え】	18
風水害に普段から備える（自助・共助の備え）	18
(1) 浸水想定をハザードマップで確認する	18
(2) 気象情報に注意して早めの行動を心がける	18
【参考資料】	19
【災害時の連絡先】	19